

# 7期ぶりに業況判断が悪化した日銀短観

## ポイント① 製造業・非製造業ともに業況悪化

4月1日に発表された3月調査の日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）によれば、大企業製造業の業況判断DI（デフュージョン・インデックス、業況が良いという割合から悪いという割合を引いたもの）は、前回2021年12月調査から3ポイント悪化したほか、大企業非製造業の業況判断DIも前回同調査から1ポイント悪化し、ともに7期ぶりの悪化となりました。本調査はロシアによるウクライナ侵攻後、初の調査であったということもあり、地政学リスクやインフレ高進の影響で、企業マインドが急速に冷え込んでいる実態を反映した模様です。

## ポイント② 非製造業・輸出業は改善に期待

とりわけ大企業製造業では、原材料価格の上昇が根強く反映されたほか、素材よりも加工の段階で景況感の悪化が目立つ形となりました。同業種の販売・仕入価格判断DIは、前回調査より、それぞれ8ポイント・9ポイントの上昇となり、徐々に原材料高を販売価格に転嫁する動きが進んでいるという見方もできそうです。他方で非製造業の業況悪化の背景には、新型コロナウイルスの感染第6波の影響があり、まん延防止等重点措置の解除を踏まえると、宿泊・飲食サービスなどの業種で今後の改善が、また輸出をメインとする製造業についても、足元の円安による売上高の増加が見込まれる模様で、それぞれ業況感の改善に期待ができそうです。

## ポイント③ 設備投資は前年度比較で増加

2022年度の設備投資計画は、全規模・全産業で前年度比+0.8%、全規模・製造業で同+9.0%の増加となり、気候変動対応やデジタル技術の浸透に向けた投資が増加の要因とみられます。

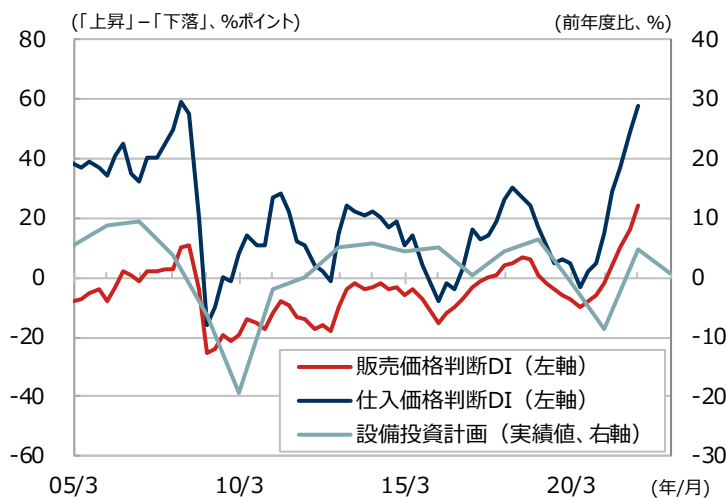
### 業況判断DI

		業況判断DI （「良い」-「悪い」、%ポイント）				
		2021年 12月調査	2022年3月調査			
			最近	先行き		
			変化幅	変化幅		
大企業	製造業	17	14	-3	9	-5
	非製造業	10	9	-1	7	-2
	全産業	14	11	-3	8	-3
中堅企業	製造業	6	3	-3	1	-2
	非製造業	2	0	-2	-3	-3
	全産業	4	2	-2	-1	-3
中小企業	製造業	-1	-4	-3	-5	-1
	非製造業	-3	-6	-3	-10	-4
	全産業	-3	-6	-3	-8	-2
全規模	製造業	6	2	-4	0	-2
	非製造業	0	-2	-2	-5	-3
	全産業	2	0	-2	-3	-3

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2021年12月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

（出所） 日銀「短観」（2022年3月調査）より野村アセットマネジメント作成  
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2203.htm/>)

### 販売・仕入価格判断DI（大企業製造業）と設備投資計画（全規模・全産業）の推移



（期間） 2005年3月調査～2022年3月調査、四半期（設備投資計画は2004年度～2022年度、年次）

（注1） 設備投資計画の2021年度以降の数値は実績見込値。

（注2） 設備投資計画は金融機関を除く。また、土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

（出所） Bloomberg、日本銀行のデータより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	4月8日	日本経常収支（2月）
	4月28日	日銀金融政策発表、経済・物価情勢の展望（展望レポート）公表